

草津市指定管理者選定委員会議事概要

開催年月日	平成27年10月23日(金)	開催時間	午後1時00分から 午後5時30分まで
出席者	委員6名、施設担当課職員3名、事務局5名 各申請団体3名以内		
傍聴者	非公開		
付議事項	指定管理者の候補者の選定に係る意見を求めることについて ① (仮称)「のびっ子」老上第二 ② 草津市立南草津駅自転車自動車駐車場		
<p>＝議事次第＝</p> <p>1 開会</p> <p>2 「(仮称)「のびっ子」老上第二」の指定管理者の候補者の選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設概要等説明 ・プレゼンテーションおよび質疑応答 ・評価・採決 <p>3 「草津市立南草津駅自転車自動車駐車場」の指定管理者の候補者の選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設概要等説明 ・プレゼンテーションおよび質疑応答 ・評価・採決 <p>4 事務連絡等</p>			

- ◆平成28年度から新たに開設し、指定管理者制度に基づく運営を開始すべく児童育成クラブ「(仮称)「のびっ子」老上第二」および平成27年度末で指定期間満了を迎える「草津市立南草津駅自転車自動車駐車場」について、指定管理者として申請した者(以下「申請者」という。)の中から、それぞれの施設において最も適切な申請者(以下「候補者」という。)を選定すべく審議を行った。

I 「(仮称)「のびっ子」老上第二」について

1 担当課説明

(1) 施設の概要等

放課後児童健全育成事業の児童育成クラブについては、児童福祉法第6条の3第2項の規定に基づいて、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童に対して、家庭と連携を図りつつ、衛生および安全が確保された設備を備えた施設において、適切な遊びや生活の場の提供、生活指導等を行うことにより、児童の心身の健全な育成を図ることを目的としている。

今回は平成28年4月から、老上小学校から(仮称)老上第二小学校が分離するにあたり、新たに(仮称)「のびっ子」老上第二を開設する。

施設は、市民センターとの合築の鉄骨2階建てで、児童育成クラブは1階部分に保育室、静養室、キッチンスペースなどを備え、専用出入口を設けている。定員については、120人となっている。

(2) 募集概要等

募集方法は条件付公募によるもので、指定期間は、平成28年4月1日から平成32年3月31日までの4年間、児童育成クラブの事業内容に基づき、児童の健全な育成を図ることとしており、クラブの運営、施設管理等に関する業務を行う。応募資格については、児童福祉事業および放課後児童健全育成事業の遂行に係る知識と熱意を有する団体としている。

(3) 募集結果

申請者 5団体

(4) 審査内容

クラブの管理を安定して行う能力を有しているか、クラブの業務運営を通じて児童の健全育成を図ることができるか、クラブの維持管理において効果的かつ効率的な管理をおこなうことができるか、事業計画、収支計画や経費に対する考え方等に妥当性、合理性があるか、その他関係法令を遵守し、対象児童の安全を確保しているものであるか、という選定基準により総合的に判断

(5) 採点方法

各委員の採点の合計点の最も高い者を、候補者として選定する。

2 各申請者によるプレゼンテーションおよび質疑応答

◆申請者Aによるプレゼンテーション：略

(以下 質疑応答)

<委員(以下「委」という。) >：本部は徳島県ということだが、草津で児童育成クラブを運営する組織体制はどう考えているのか。

<申請者A(以下「A」という。) >：平成28年度に、滋賀県内で保育園の開設

を予定している関係で大阪に支社を設けるので、そこが管理・運営を担うことになる。

<委>：プレゼンテーションの資料によると、阿南市（徳島県）でこの6月から児童育成クラブを運営しているとのことだが、これが初めての運営になるのか。

<A>：児童育成クラブとしては、これが初めてになる。

<委>：将来的な展開はどう考えているのか。

<A>：阿南市では、人口はそう多くないが、児童育成クラブにおいて待機児童が発生しているので、現在3、4施設の児童育成クラブの開設を申請している。また、今後は待機児童が多いと聞いている関西方面への展開を予定をしている。

<委>：プレゼンテーションの中で、英語を積極的に取り入れた運営・取組が多々あったが、英語に力を入れて取り組んでいくという理解でよいか。

<A>：当社は英語教育というものを根本にしており、これから世界に羽ばたく子どもにとって、英語が習得できていればと考える。また、学童と英語教育の両方に通わしたいという保護者のニーズもあることから、それに応えることもできる。

<委>：外国人も採用しているとのことだが、日本に在住している人を採用しているのか。

<A>：海外の外国人を採用している。

<委>：現在、運営されている児童育成クラブ施設の外国人以外の語学支援のスタッフの体制はどうなっているのか。

<A>：児童育成クラブに携わる日本のスタッフについても、社内で研修を行い、子どもたちと英語を使った関わりを持てるようにしている。

<委>：英語教育を行える資格を持っているスタッフを採用しているのか。

<A>：持っているスタッフもいるが、持っていないスタッフもいる。

<委>：もし、指定管理者に選定された場合、スタッフの採用等はどのようにするのか。

<A>：草津市ないし滋賀県内で採用を行う。

<委>：児童育成クラブを運営していくなかで、地域や保護者、学校等から様々な要望があると思うが、そういった場合の対応はどうしているのか。

<A>：できる限り要望には応えていきたいと考えている。

<委>：プレゼンテーションで海外の行事を行うとあったが、日本で一般的に行われているクリスマスやハロウィン等以外でどんな行事を行っているのか。

<A>：ポルトガル人の先生がいるので、ポルトガル料理を子どもたちと一緒に作ったり、英語のスピーチをしてみたり、海外の子どもたちとテレビ電話でお互いの文化を紹介しあったり等の行事がある。

<委>：質問は以上となるが、これまでの質問等を受け最後に何かアピールしておくことはあるか。

<A>：英語の学童ということを全面的に打ち出してきたが、英語以外の部分、「しつけ」や「保護者との連携」といったこともともに勉強しながら取り組んでいきたいと考えている。

◆申請者Bによるプレゼンテーション：略

（以下 質疑応答）

<委>：プレゼンテーションのなかで、新たに老上第二小学校の近くに保育園を建

設するとあったが、どのくらいの近さにどの程度の規模になるのか。

<申請者B（以下「B」という。）>：小学校から約200mの近さで、敷地は約240坪で60人程度の定員になる。

<委>：対象年齢は。

：0歳から5歳児まで。

<委>：申請書の事業計画費では、研修費が少ないように思うが、何か理由はあるのか。

：自治体等が行う研修会に積極的に参加することと、ベテランの職員も多く在籍しているので、研修費を抑え、その分保育に費用をかけたい。

<委>：事業計画では、支援員を7名雇用するとなっているが、この支援員は指定管理することが決まったら雇用するという考えか。

：現状雇用している職員と、他の事業で雇用を予定している職員もいるので、今後必要となる職員との兼ね合いで採用していく。

<委>：本部は長崎県ということだが、今回申請の案件以外にも滋賀県で保育園等を展開されているが、どうして滋賀県に進出しようと考えたのか。

：団体の役員が大阪の出身ということもあり、近畿での展開は以前から考えていた。近畿の待機児童の問題等に関心があり、アンテナを張っていたところ草津市が募集しているのを見つけ応募した。

<委>：今後雇用する職員は、草津市で求人をかけ採用する予定なのか。

：草津市での雇用を考えている。

<委>：現在運営している児童育成クラブについては、定員を割っているが、何か理由はあるのか。

：公の児童育成クラブの待機児童が多数発生する見込みで開設したが、実際には応募者が伸びず、そこまで待機児童が発生しなかったため。

<委>：現在運営している児童育成クラブについて、指定管理で運営している施設はあるのか。

：現在のところは、指定管理で行っている施設は持っていない。

<委>：質問は以上となるが、これまでの質問等を受け最後に何かアピールしておくことはあるか。

：保育業界全体で人手不足となっているなか、当社を支持していただいているスタッフ全員がこの指定管理を受けたいと願っている。

◆申請者Cによるプレゼンテーション：略

（以下 質疑応答）

<委>：児童育成クラブの運営については、未経験ということだが、その部分をどのようにして補う考えでいるのか。

<申請者C（以下「C」という。）>：未経験ではあるが、当社は子どもを預かる事業を展開しているので、子どもの体や心を鍛えたりするノウハウは持っていると考えている。

<委>：主となる事業（空手道場の運営）と今回応募した児童育成クラブとの連携は何か考えているのか。

<C>：空手道場では体を鍛えることが主となっているが、児童育成クラブでは空

手に限らず様々なスポーツに役立つ体づくりを進め、ルールを守ること等を通して心身ともに鍛えることにも取り組んでいきたい。

<委>：児童育成クラブの運営と空手道場の運営とでは、勝手にだいぶ違うと思うが、そこはどう考えているのか。

<C>：児童育成クラブに通う子に空手を教え込もうという考えではなく、空手の要素を取り入れた遊び等を通して、礼儀や相手を思いやることを学ぶことに活かせると考えている。

<委>：公の児童育成クラブを運営することは、様々な障害等のある子どもたちも通うことになるが、何か対応等は考えているのか。

<C>：程度にもよるが、せっかく通ってくれるのであれば、無理のないレベルで可能な範囲で一緒にできればと考えている。

<委>：運営している空手道場は子どもを対象にしているのか。

<C>：現在は小学生を対象にしている。

<委>：質問は以上となるが、これまでの質問等を受け最後に何かアピールしておくことはあるか。

<C>：今回は公設の施設だが、今後は民設の運営も視野に入れ進めていきたい。

◆特定非営利活動法人ひかりの子（以下「ひかりの子」という。）によるプレゼンテーション：略

（以下 質疑応答）

<委>：申請書の中で、職員の体制において、定期昇給についての記載があるが、支出の項目を見ると、人件費の支出について、向こう4年間毎年同額の支出が予定されているがどういうことなのか。

<ひかりの子>：職員の数はどうしても児童数に影響されるので、申請時点では、年間人件費の平均の見込みで申請している。定期昇給制度はある。

<委>：職員の給料制度はどうなっているのか。

<ひかりの子>：常勤の職員については月額を、その他の職員は時給を支給している。

<委>：プレゼンテーションにおいて、「専門機関との連携」があったが、具体的にはどういうことか。

<ひかりの子>：主に障害児等の支援を行う発達支援センターとの連携を行っている。

<委>：今回の申請の中で唯一、現在、指定管理を受託している団体（「のびっ子」老上を受託している）ということで、運営していく中で困難なことと、また、指定管理者として力が発揮できている点は何か。

<ひかりの子>：元々、民設で児童育成クラブを行っていたので、地域との連携、保護者との連携については、強みだと考えている。また、困難なことは、地域的に人口増が著しく、子どもの数がどんどん増える中で限界まで受け入れているので、市もいろいろと工夫しているが、どうしてもスペースが狭くなってきている。

<委>：運営していて、今後、自分たちで改善していく点、より良くしていこうと思う点は何か。

<ひかりの子>：子どものことを第一に考えて、常に改善を進めていく。

<委>：今回は、「のびっ子」老上が分離する形になると思うが、もし、「のびっ子」老上第二の指定を受けた場合、職員の配置はどう考えているのか。

<ひかりの子>：専任の職員については、希望をとった上で半分は「のびっ子」老上第二に、非常勤の職員についても同様に配置し、不足している場合は新たな雇用を考えている。

<委>：今、子ども同士は友達関係ができあがっていると思うが、分離することによって違う施設に通うことになるが、子ども同士の施設間の交流の予定はあるのか。

<ひかりの子>：それぞれ居住している学区の「のびっ子」に通うことになるので、なかなか交流は難しいが、夏休み期間等の長期休暇においては、イベントの合同開催等で交流を持つことはできるのではないかと考えている。

<委>：児童育成クラブにおいて、学校教育と違う点はどういう点か。

<ひかりの子>：学校教育はやはり、子どもたちにとっては、教師がいて、一定評価される場であるが、児童育成クラブはそういったことがないという点で子どもたちの意識が大きく違う。

<委>：質問は以上となるが、これまでの質問等を受け最後に何かアピールしておくことはあるか。

<ひかりの子>：運営については、保護者、支援員、運営者が密接に連携して進めていくことで、円滑に進めてまいりたい。

◆申請者Dによるプレゼンテーション：略

(以下 質疑応答)

<委>：申請書の資料では、草津と草津に隣接する大津の地域を中心に保育園や児童育成クラブを展開しているみたいだが、なぜこの地域を選んだのか。

<申請者D (以下「D」という。) >：この地域は人口の増加が著しく待機児童の問題も発生していることから、大津・草津の両市と連携しながら待機児童の解消に取り組んでいきたいから。

<委>：今後の展開はどう考えているのか。

<D>：関西の中でも特にこの地域は人口増加が著しく、子育て環境に対する補助金等の財政支援にも力を入れていると感じているので、状況が大きく変わらないのであれば、この地域を中心に展開していきたいと考えている。

<委>：指定管理が決まれば、職員は近隣の人を雇用するのか。

<D>：スタッフについては近隣から雇用したいと考えているが、施設長については現在雇用しているスタッフで対応したいと考えている。

<委>：今後、指定管理も含め、30人程度の応募を考えているとのことだが、近隣で募集をかけたとして、十分な応募があると見込んでいるのか。

<D>：新たな施設をこれから展開しようとしていて、募集をかけているが応募状況は好調である。

<委>：(保育園の運営もしているので) 保育士については、働き手不足が深刻化しているとも聞いているが、それについてはどうか。

<D>：今後の展開のことも見据え、利益は減少するが既存施設において以前から少し多めに雇用をしている。

<委>：今回の募集は、1つの施設が2つに分離することになるが、分離後の交流とか何か考えはあるか。

<D>：現在、大津の既存施設において、公設の児童育成クラブや近隣の施設等とイベントを行うなど交流を進めているので、指定管理者になった場合は、そういった交流を進めていきたいと考えている。

<委>：申請書によると、児童育成クラブの指定管理者も他地域で行っているということか。

<D>：今年度から東海地域で指定管理を行っている。

<委>：質問は以上となるが、これまでの質問等を受け最後に何かアピールしておくことはあるか。

<D>：各地で保育園を運営しているが、保育園から小学校にあがる際、子どもを預ける施設がないという保護者の声をきっかけに、卒園時の行き場として児童育成クラブの運営を始めてきたが、今回、同じ思いで草津市に申請し、保護者の方が安心して子どもを預けて働けるように、これまで培ったノウハウを結集していく。

3 採決

各委員によるそれぞれの申請者の採点後、最も高い得点を得た、「特定非営利活動法人ひかりの子」を候補者とするのが適当であるとの結論に至った。

II 草津市立南草津駅自転車自動車駐車場について

1 担当課説明

(1) 施設の概要等

草津市立南草津駅自転車自動車駐車場は、南草津駅東口近辺に位置し、平成14年4月から開業しており、自転車と自動車が駐車可能な駐車場となっている。

建物については、鉄骨造り3階4層となっており、24時間車両の出入りが可能となっている。

駐車台数については、自転車は3,126台となっており、バイク、二輪自転車は348台、自動車は330台の駐車が可能となっており、ほぼ毎日8割から9割の駐車率となっている。また自転車駐車場では、平成23年度から自動ノンストップゲートシステムを導入し、スムーズにゲートを通することが可能となり、現在では通勤時間帯などの時間帯でも、手続き待ちなどによる時間のロスやストレスを感じることなく、円滑に入出庫が出来るようになっており、一時利用、回数券、定期の料金の支払いについても、自動精算機による支払となっている。

(2) 募集概要等

募集方法は公募によるもので、指定期間は、平成28年4月1日から平成33年3月31日までの5年間。

(3) 募集結果

応募者 2団体

(4) 審査内容

申請団体の組織の安全性、管理運營業務への適性、施設運営の方向性、管理運

営体制、危機管理体制、管理運営費を含めた経営努力、地域への貢献度、という選定基準により総合的に判断

(5) 採点方法

各委員の採点の合計点の最も高い者を、候補者として選定する。

2 各申請者によるプレゼンテーションおよび質疑応答

◆一般社団法人草津市勤労者福祉サービスセンター（以下「センター」という。）によるプレゼンテーション：略

（以下 質疑応答）

<委>：この施設はできてどれくらい経つのか。

<センター>：12年ぐらい経っている。

<委>：施設の老朽化は進んでいるのか。

<センター>：精算機等の点検は適宜行っているが、機械関係の老朽化は発生している。

<委>：指定管理者として、何か駐車場の将来的な見直しの展望はあるのか。

<センター>：立命館大学の一部が、大阪に移転し、大学生は減ったが、周辺の開発に伴って利用者は増えていくのではないかと。また、駅の西口にも学校が建設されたり、住宅開発が進みさらに利用者は増えるのではないかと。現在でも西口からあふれて東口の駐輪場を利用している方もいる。

<委>：東口は民間の駐車場もあるが、バッシングはないか。

<センター>：当駐車場は上限がないので、長時間停める利用者は民間の駐車場に流れていることはあると思うが、フェリエに来館する方の利用が多く稼働率は良い。

<委>：本駐車場は定期があったかと思うが、定期はどのように運用しているのか。

<センター>：駐車場の3割程度の駐車スペースを定期利用者用として確保しているが、定期の交付待ちが数年という単位で発生しているため、定期と随時のバランスをもう少し見直すか、工夫する必要がある。

<委>：駐車場の運営については、採算だけを追求するわけにはいかないと思うが、市の駐車場としての性格もあるので、そこはどのように考えているのか。

<センター>：やはり利用者にとっても市営駐車場という意識が強く、公の施設の利用に伴う駐車場の利用があるので、そこは民間の駐車場との違い自由度は低いと捉えている。

<委>：利用者はJR利用者が多いのか。

<センター>：そういう認識はある。報道にもあったが、JRの乗降客数について、南草津駅は草津駅を抜いて県下最多ということで、今後さらに駐車場・駐輪場の利用が伸びるのではないかと。

<委>：主な利用者は学生か。

<センター>：駐輪場は全体の7割程度と把握している。

<委>：学生の利用が多いことで何か対策はあるのか。

<センター>：事業計画において、平成28年度は大学と連携して放置自転車の撲滅を進めていくことを考えている。卒業生が自転車を放置している等の例が

あり、市や警察とも連携して対策を講じたい。

<委>：駐車場と駐輪場の収入はどの程度か。

<センター>：駐輪場で約1億円、駐車場で3,600万円となっている。

<委>：駐輪場はいつも満車か。

<センター>：駐輪場は、定期を持っている利用者も指定の場所に停めるのではなく、相互利用となっているので、駐輪場が危険となる満車は過去からのデータの積み上げの経験上の判断となる。

<委>：運営上、特に苦勞している点は何か。

<センター>：駐輪場において、入出庫をICを使ったシステムで管理しているが、スタッフが入れ替わった際、十分に理解し、利用者に教えられるようになるのに時間がかかる点は苦勞している。

<委>：申請書によると、シルバー人材センターから派遣しているスタッフが一部いると思うが、研修等は直接雇用のスタッフと同様に行っているのか。

<センター>：同様に行っている。

<委>：質問は以上となるが、これまでの質問等を受け最後に何かアピールしておくことはあるか。

<センター>：計画に当たっては、6つの運営方針があり、「市民が高い満足度をえられること」「障害者等への配慮」「施設内事故発生率0%」「関係団体との連携による放置自転車の撲滅」「交通ルール・マナーの向上」「利用者にとってスムーズな利用」の6点があり、進めていきたいと考えている。

◆申請者Aによるプレゼンテーション：略

(以下 質疑応答)

<委>：提案にある(ネットを利用した)独自のシステムは利用者にとって具体的にどのようなメリットがあるのか。

<申請者A(以下「A」という。) >：具体的には、工事があった場合のお知らせや、利用時間の周知に利用してもらえる。ただ、最大のメリットは、災害時等に駐車場利用者以外にも解放され、無料で通信できるという点が大きいと考えている。

<委>：今回、大阪の方から申請されたが、この南草津駅近辺の駐車場・駐輪場の状況や将来性等を事前に調査したのであれば、どういう結果でどういう改善が見込まれるのか。

<A>：事前説明会がなかったなので、詳細については十分調査できていないが、例えばLED化が進んでいないのと、自動販売機がないといった分かりやすい改善点がある。また、兵庫県のある市の同規模の駐車場の指定管理も行っており、そこでのノウハウを用いて改善し、将来性も考えていきたい。

<委>：LED化の提案は、全ての電気をと考えているのか。

<A>：場所やつけている時間にもよるが、できるだけ多くと考えている。

<委>：指定管理については、団体の事業としていつから行っているのか。

<A>：昨年からで、中国地方で駐輪場2ヶ所、関西で駐車場2ヶ所、その他の地域を含め現在26ヶ所の指定管理を運営している。

<委>：質問は以上となるが、これまでの質問等を受け最後に何かアピールしてお

くことはあるか。

<A>：指定管理を受託することは大きな利益が出る事業ではないが、様々な事業を展開して地域に貢献できれば、また、こういった事業を受けることによって事業所としてさらに拡大していければと考えている。

3 結論

各委員によるそれぞれの申請者の採点後、最も高い得点を得た、「一般社団法人草津市勤労者福祉サービスセンター」を候補者とすることが適当であるとの結論に至った。